

I . 概 要

1. 沿 革

明治30 (1897).	6	京都帝国大学設置
大正10 (1921).	4	芦生演習林設置 (京都府北桑田郡知井村)
12 (1923).	11	農学部設置
13 (1924).	1	農作園芸学・林学・農林化学・農林生物学・農林工学・農林経済学の6 学科設置
13 (1924).	5	附属農場・附属演習林設置
14 (1925).		農作園芸学科を農学科に改称
15 (1926).	1	和歌山演習林設置 (和歌山県有田郡八幡村)
15 (1926).	9	演習林上賀茂試験地設置 (京都市上京区上賀茂)
昭和3 (1928).	11	摂津農場設置 (大阪府三島郡磐手村大字安満)
4 (1929).	1	摂津農場古曾部園芸場設置 (大阪府三島郡磐手村大字古曾部)
6 (1931).	3	徳山砂防演習地設置 (徳山市笹葉ヶ丘)
12 (1937).	5	大島植物試験地設置 (和歌山県西牟婁郡串本町)
17 (1942).	3	演習林徳山試験地設置 (旧徳山砂防演習地)
22 (1947).	1	水産学科設置
22 (1947).	10	京都帝国大学を京都大学と改称
24 (1949).	4	北海道演習林標茶経営区設置 (北海道白糖郡白糖村)
24 (1949).	5	新制京都大学設置
25 (1950).	2	演習林白浜試験地設置 (和歌山県西牟婁郡白浜町)
25 (1950).	6	北海道演習林白糖経営区設置 (北海道白糖郡白糖村)
28 (1953).		農林化学科、農林工学科をそれぞれ農芸化学科、農業工学科に改称
28 (1953).	4	大学院農学研究科 (農学専攻、林学専攻、農芸化学専攻、農林生物学専 攻、農業工学専攻、農林経済学専攻、水産学専攻) 設置
33 (1958).	4	附属簿記研究施設設置
34 (1959).	2	農業植物試験所設置 (京都府乙訓郡向日町)
35 (1960).	7	高原畜産試験牧場設置 (京都府船井郡丹波町)
36 (1961).	11	農場機構の改正により、摂津農場を本場、古曾部園芸場を古曾部温室部 と改称
38 (1963).	4	附属農薬研究施設設置
40 (1965).	4	林産工学科設置
42 (1967).	4	食品工学科設置
42 (1967).	6	附属亜熱帯植物実験所設置 (旧大島植物試験地)
44 (1969).	4	林産工学専攻設置
46 (1971).	4	附属植物生殖質研究施設設置 (旧農業植物試験所) 食品工学専攻設置
47 (1972).	4	畜産学科設置
47 (1972).	5	附属水産実験所設置 (舞鶴市字長浜)
49 (1974).	4	附属牧場設置 (旧高原畜産試験牧場)

昭和51 (1976).	4	畜産学専攻設置
56 (1981).	4	熱帯農学専攻設置
57 (1982).	4	附属生物細胞生産制御実験センター設置
平成2 (1990).	6	農芸化学科の改組に伴い、附属生物細胞生産制御実験センター廃止
3 (1991).	4	附属農場古曽部温室部を花卉温室部に改組
7 (1995).	4	農学部10学科を生物生産科学科、生物機能科学科及び生産環境科学科の3学科に改組
		附属農業簿記研究施設廃止
		地域環境科学専攻及び生物資源経済学専攻設置（再編整備）
8 (1996).	5	附属植物生殖質研究施設廃止
		森林科学専攻及び応用生物科学専攻設置（再編整備）
9 (1997).	4	附属農薬研究施設廃止
		農学専攻及び応用生命科学専攻設置（再編整備）
10 (1998).	4	附属農場・附属演習林・附属亜熱帯植物実験所・附属牧場・附属水産実験所は大学院研究科の附属施設に再編
12 (2000).	4	農学部、農場、演習林各事務部を農学部等事務部に統合
13 (2001).	4	農学研究科・食糧科学研究所の改組（統合）
		食品生物科学専攻設置（再編整備）
		農学部3学科を資源生物科学科、応用生命科学科、地域環境工学科、食料・環境経済学科、森林科学科及び食品生物科学科の6学科に改組
15 (2003).	4	農学研究科附属施設の演習林、亜熱帯植物実験所及び水産実験所が全学共同利用として設置のフィールド科学教育研究センターへ移行
16 (2004).	4	国立大学法人京都大学設立
18 (2006).	4	寄附講座「産業微生物学講座」の設置（3年間）
18 (2006).	10	寄附講座「(味の素) 食の未来戦略講座」の設置（3年間）
19 (2007).	4	寄附講座「食と農の安全・倫理論講座」の設置（3年間）

2. 大学院、学部及び附属施設

大 学 院

研 究 科	専 攻 名	基 幹 講 座 名 () 書きは協力講座名
農学研究科 7 専攻 32講座 7 協力講座 昭和28年4月 開設 〒606-8502 京都市左京区 北白川追分町 TEL. 075-753-6490	農 学	作物科学、園芸科学、耕地生態科学、品質科学 (生産管理科学)
	森 林 科 学	森林管理学、森林生産学、緑地環境保全学、生物材料工学、生物材料機能学 (森林資源学)、(木質バイオマス科学)、(木質材料機能学)
	応 用 生 命 科 学	応用生化学、分子細胞科学、応用微生物学、生物機能化学 (生体分子機能)、(木質生命科学)
	応 用 生 物 科 学	資源植物科学、植物保護科学、動物遺伝増殖学、動物機能開発学、海洋生物資源学、海洋微生物学、海洋生物生産学
	地 域 環 境 科 学	比較農業論、生物環境科学、生産生態科学、地域環境開発工学、地域環境管理工学、生物生産工学 (放射線管理学)
	生物資源経済学	農企業経営情報学、国際農林経済学、比較農史農学論
	食 品 生 物 科 学	食品生命科学、食品健康科学、食品生産工学

学 部

学 部	学 科	学 科 目
農学部 6 学科 6 大学科目 大正12年11月開設	資 源 生 物 科 学 科	資源生物科学
	応 用 生 命 科 学 科	応用生命科学
	地 域 環 境 工 学 科	地域環境工学
	食料・環境経済学科	食料・環境経済学
	森 林 科 学 科	森林科学
	食 品 生 物 科 学 科	食品生物科学

附属施設

附 属 施 設 名	所 在 地	電話番号
附属農場（本場）	〒569-0096 高槻市八丁畷12-1	072-685-0134
古曽部地区	〒569-1115 高槻市古曽部町2-30	072-685-0221
京都農場	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	075-753-6403
附属牧場	〒622-0203 京都府船井郡京丹波町富田蒲生野144	0771-82-0047

3. 職員数等

(1) 職 員 数

(平成20年4月1日現在)

区 分		教授	准教授	講師	助教	計	事務職員	技術職員	計	合計
農 学 専 攻		8	6	2	9	25		2	2	27
森 林 科 学 専 攻		10	7	3	11	31				31
応 用 生 命 科 学 専 攻		9	10		14	33		2	2	35
応 用 生 物 科 学 専 攻		12	14	1	14	41		3	3	44
地 域 環 境 科 学 専 攻		10	11	4	14	39				39
生 物 資 源 経 済 学 専 攻		5	5	2	4	16				16
食 品 生 物 科 学 専 攻		6	6		8	20		1	1	21
小 計		60	59	12	74	205		8	8	213
農 場		1			5	6		15	15	21
牧 場			1			1		6	6	7
小 計		1	1		5	7		21	21	28
事 務 部	事 務 部 長						1		1	1
	総 務 課						31		31	31
	経 理 課						33	3	36	36
	教育・研究協力課						11		11	11
小 計							76	3	79	79
合 計		61	60	12	79	212	76	32	108	320

(2) 役 職 員

平成20年4月1日現在

研 究 科 長 (学部長)	奥 村 正 悟
教育研究評議会評議員	遠 藤 隆
教育研究評議会評議員	伏 木 亨
副 研 究 科 長	平 田 孝
副 研 究 科 長	宮 川 恒
副 研 究 科 長	縄 田 栄 治
(専 攻)	
農 学 専 攻 長	白 岩 立 彦
森 林 科 学 専 攻 長	中 野 隆 人
応用生命科学専攻長	間 藤 徹
応用生物学専攻長	久 米 新 一
地域環境科学専攻長	河 地 利 彦
生物資源経済学専攻長	野 田 公 夫
食品生物学専攻長	河 田 照 雄
(学 科)	
資 源 生 物 科 学 科 長	奥 野 哲 郎
応用生命科学科長	植 田 充 美
地域環境工学科長	星 野 敏
食料・環境経済学科長	新 山 陽 子
森 林 科 学 科 長	水 山 高 久
食 品 生 物 科 学 科 長	入 江 一 浩
(附属施設)	
農 場 長	米 森 敬 三
牧 場 長	久 米 新 一
(事 務 部)	
事 務 部 長	小 坂 吉 美
総 務 課 長	松 本 道 雄
経 理 課 長	丸 岡 正 雄
教育・研究協力課長	荒 木 憲 次

4. 学部学生及び平成19年度入学状況

(平成20年1月1日現在)

区 分	学 部 学 生 数				入 学 員	志 願 者 数		入 学 者 数	
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		男	女	男	女
生 物 生 産 科 学 科				3					
生 物 機 能 科 学 科				1					
資 源 生 物 科 学 科	99 (1)	95 (1)	99	105	300	418 (5)	216 (10)	198 (3)	124
応 用 生 命 科 学 科	49 (1)	51 (1)	53	63 (1)					
地 域 環 境 工 学 科	42 (1)	38	36 (1)	36 (1)					
食 料 ・ 環 境 経 済 学 科	35	34	31 (1)	43					
森 林 科 学 科	60	56	56	69					
食 品 生 物 科 学 科	37	33	33 (1)	39					
計	322 (3)	307 (2)	308 (3)	359 (2)					

※ () 内は、外国人留学生の数で外数。

5. 大学院学生及び平成19年度入学状況

(平成20年1月1日現在)

区 分	修士課程学生数		入学 定員	志願者数		入学者数		博士後期課程学生数			入学 定員	志願者数		入学者数	
	1 年次	2 年次		男	女	男	女	1 年次	2 年次	3 年次		男	女	男	女
農 学 専 攻	33	32	23	27	19	21	12	6	10	18	11	7	0	6	0
森 林 科 学 専 攻	41	52	45	41	22	28	13	12	16	31	22	9	4	8	4
応 用 生 命 科 学 専 攻	72	75	48	64	36	46	26	10	12	26	22	8	3	7	3
応 用 生 物 科 学 専 攻	53	58	50	62	31	35	18	13	11	30	23	10	5	8	5
地 域 環 境 科 学 専 攻	50	55	48	56	17	36	14	9	6	31	20	8	2	7	2
生 物 資 源 経 済 学 専 攻	15	27	24	16	8	12	3	10	7	21	11	4	6	4	6
食 品 生 物 科 学 専 攻	36	34	25	29	26	15	21	8	4	10	11	8	1	8	0
計	300	333	263	295	159	193	107	68	66	167	120	54	21	48	20

(注) 志願者数及び入学者数は、平成19年10月入学者を含む。

6. 農学部卒業生及び大学院修了者の進路（平成19年度）

区 分	農 業	林 業	漁 業	建 設 業	食料・飲料・タバコ	織 維	化学・石油	鉄鋼・金属	機械・電気	出版・印刷等	電力・ガス	運輸・通信	卸売・小売	金融・保険	教育・団体	国家公務員	地方公務員	その他	計	科学研究者	技術者	教員	その他
学部卒業生	1				5	1	1		6			5	4	5	7		1	4	40		8	2	30
修士修了者	3	1		2	62	4	46	2	10	2		17	2	11	17	11	5	23	218	76	78	2	62
博士後期課程 修了・退学者	1	1			3		4	1				1			62	3		6	82	58	8	9	7

7. 平成19年度研究生等

区 分	研 究 生	科 目 履 修 生	研 修 員 等	招 へ い 外国人学者	外 国 人 共同研究者
農 学 専 攻	3	1	2	1	2
森 林 科 学 専 攻	2		3	1	1
応用生命科学専攻	5		5	0	2
応用生物科学専攻	2		10	0	2
地域環境科学専攻	4		6	2	3
生物資源経済学専攻	4		6	1	0
食品生物科学専攻	5		6	0	0
牧 場			1	0	1
計	25	1	39	5	11

8. 博士学位授与数（平成19年度）

区 分	平成19年度	
	課程博士	論文博士
農 学 専 攻	7	8
林 学 専 攻		
農 芸 化 学 専 攻		
農 林 生 物 学 専 攻		
農 業 工 学 専 攻		
農 林 経 済 学 専 攻		
水 産 学 専 攻		
林 産 工 学 専 攻		
食 品 工 学 専 攻		
畜 産 学 専 攻		
熱 帯 農 学 専 攻		
森 林 科 学 専 攻	9	5
応用生命科学専攻	16	3
応用生物科学専攻	14	5
地域環境科学専攻	22	6
生物資源経済学専攻	0	1
食品生物科学専攻	9	3
計	77	31

旧 制		641
新 制	課程博士	1,723
	論文博士	2,682
合 計		5,046

9. 予算概要（平成19年度）

収 入

区 分	受入金額
授業料・入学料・検定料	1,381,349千円
受 託 研 究 等	666,393千円
寄 附 金	200,129千円
雑 収 入	113,843千円
計	2,361,714千円

支 出

区 分	支出金額
大 学 運 営 費	4,728,773千円
内 人 件 費	3,622,015千円
誤 物 件 費	1,106,758千円
施設整備費補助金	0円
受 託 研 究 費 等	680,431千円
寄 附 金	236,232千円
計	5,645,436千円

科学研究費補助金

研 究 種 目	件数	交付金額
特 定 領 域 研 究	10	107,600千円
学 術 創 成 研 究 費	0	0千円
基 盤 研 究（S）	0	0千円
基 盤 研 究（A）	13	118,300千円
基 盤 研 究（B）	56	247,306千円
基 盤 研 究（C）	27	29,700千円
萌 芽 的 研 究	20	25,857千円
若 手 研 究（A）	3	18,000千円
若 手 研 究（B）	25	40,200千円
若手研究（スタートアップ）	4	5,420千円
特別研究員奨励費	47	44,400千円
合 計	205	636,783千円

10. 土地及び建物

(平成20年1月1日現在)

区 分		土 地	建 物	
			建 面 積	延 面 積
農学研究科・農学部		4.8ha	13,938㎡	52,713㎡
附属農場	本 場	15.0	3,141	3,277
	〃 (古曽部地区)	0.8	1,112	1,112
	京 都 農 場	3.5	135	224
附 属 牧 場		15.6	3,785	4,252
(附 属 水 産 実 験 所)		4.1	802	844

職員宿舎を除く。

11. 図書蔵書数

(平成19年 3 月31日現在)

区 分	図書（冊）	雑誌（種）
農 学 専 攻	150,896	1,950
森 林 科 学 専 攻		
応 用 生 命 科 学 専 攻		
応 用 生 物 科 学 専 攻		
地 域 環 境 科 学 専 攻		
生 物 資 源 経 済 学 専 攻		
食 品 生 物 科 学 専 攻		
図 書 室	113,358	2,636
附 属 農 場	228	15
附 属 牧 場	61	16
留 学 生 室	407	22
合 計	264,950	4,639

12. 関係資料

1) 転学部・転学科の状況

年度	転学部（転出）		転学部（転入）		転学科	
	出願数	許可者数	出願数	許可者数	出願数	許可者数
2002	13	8	1	0	5	1
2003	7	3	2	0	18	11
2004	8	4	0	0	19	12
2005	10	7	2	0	12	11
2006	14	7	7	2	23	13
2007	5	3	2	1	11	9
2008	4	2	3	0	6	4

2) 学科コース毎の卒業者数の推移

年度	生物生産科学科		生物機能科学科		生産環境科学科			合計
	資源生物科学	生産システム学	応用生命科学	生物材料科学	生物環境科学	地域環境創造学	生物資源経済学	
2002	96	35	94	34	30	33	50	372
	85	21	79	20	26	27	32	290
2003	92	33	98	42	28	37	48	378
	83	20	86	24	25	33	30	301

上段：4回生数、下段：卒業者数

3) 学科毎の卒業者数の推移

年度	資源生物科学科	応用生命科学科	地域環境工学	食料・環境経済学科	森林科学科	食品生物科学科	生物生産科学科		生物機能科学科		生産環境科学科			農林生物学科	合計
							資源生物科学	生産システム学	応用生命科学	生物材料科学	生物環境科学	地域環境創造学	生物資源経済学		
2004	99	49	34	27	56	31	9	11	10	17	2	4	16	1	366
	83	45	32	23	51	29	3	3	6	6	2	2	6	1	292
2005	113	55	36	35	61	40	3	5	1	6		2	7		361
	103	50	26	31	51	38	0	0	0	0		0	3		302
2006	109	60	41	33	63	37	2	5	1	5		1	3		360
	97	50	33	21	52	32	1	1	1	2		0	2		292
2007	106	64	37	43	69	39		4		2					364
	95	53	21	27	61	36		1		0					294

上段：4回生数、下段：卒業者数

4) 大学院博士後期課程への進学・編入学状況

年度	本学からの 進学者	編入学者		進・入学者		
		出願者	入学者	合計	男	女
2002	90	32	29	119	90	29
2003	85	25	21	106	78	28
2004	73	30	22	95	63	32
2005	71	33	26	97	74	23
2006	68	11	6	74	55	19
2007	50	25	18	68	48	20

5) 大学院学生の出身別構成

1. 修士課程

年度	本学農学部	本学他学部	国内他大学	国外他大学	合計
2002	187	1	86	9	283
2003	205	4	79	10	298
2004	201	6	87	12	306
2005	200	3	78	9	290
2006	207	3	93	4	307
2007	199	1	92	8	300

2. 博士課程

年度	本学農学研究科	本学他研究科	国内他大学	国外他大学	合計
2002	90	0	14	15	119
2003	84	1	10	11	106
2004	72	3	12	8	95
2005	66	4	10	17	97
2006	66	0	6	2	74
2007	52	0	11	5	68

6) 大学院学生の研究指導委託状況

年度	修士課程			博士後期課程		
	国内	国外	合計	国内	国外	合計
2002	2	3	5	5	8	13
2003	1	3	4	4	2	6
2004	7	1	8	7	3	10
2005	8	2	10	6	0	6
2006	1	0	1	4	1	5
2007	2	0	2	2	1	3

7) 研修員等の受入れ

区分 \ 年度	2004	2005	2006	2007
研修員	17	30	21	21
文部省内地研究員				
産業教育内地留学生				
日本学術振興会特別研究員	21	10	9	8
私学研修員	1		2	2
公立大学研修員		1	1	
一般受託研究員	7	16	17	12
農林水産技術会議研究員				
農林水産省流動研究員	1			
普及職員国内留学研修員				
工業技術院流動研究員				
科学技術庁国内留学生				
ユネスコ国際大学院研修講座研修生				
外国人受託研修員	2	1	1	2
国費外国人留学生				
合 計	49	58	51	45

他中国政府派遣研究員 2 名

ユネスコ国際大学院研修講座研修生外国人共同研究者で報告 1 名

8) 大学院修士課程修了者の進路状況

年度	修了者	進学	就職	その他	就職先			
					研究者	技術者	教員	その他
2003	267	77	174	16	79	67	0	28
2004	280	72	199	9	59	89	1	50
2005	297	80	210	7	50	105	4	51
2006	268	54	207	7	65	81	4	57
2007	297	63	218	16	76	78	2	62

9) 平成19年度 農学研究科修士課程各専攻出身者の活動状況（業種別）

業種 \ 専攻	農学	森林科学	応用生命科学	応用生物科学	地域環境科学	生物資源経済学	食品生物科学	合計
[民間企業]	21	24	56	30	29	7	31	198
(製造業)								
農・林・水産業	2		1		1			4
種苗								
食品	13	1	18	7	5		18	62
化学・医薬		7	27	5	5		6	50
木材・住宅		1						1
製紙・パルプ		1						1
土木建設		1			1			2
電機・機械	2	3	1		4			10
エネルギー								
その他		4	1	2	3		3	13
(サービス業)								
流通・販売		1		1	3	1		6
金融・保険・証券	1		2	3	2	2	1	11
情報		1	3	2	2	1	1	10
コンサルタント		1		1				2
ジャーナリズム		1		1		1		3
その他	3	2	3	8	3	2	2	23
[公的機関・団体]	1	6	1	3	3	4		18
研究機関		1		1				2
行政機関	1	5	1	2	3	4		16
その他								
[教育機関]				1	1			2
大学								
高・中学校				1	1			2
進学、その他	7	15	13	17	14	12	1	79
合 計	29	45	70	51	47	23	32	297

10) 平成19年度 農学研究科博士後期課程各専攻出身者の活動状況（職務内容別）

専攻 職務内容	農学	森林 科学	応用生 命科学	応用生 物科学	地域環 境科学	生物資源 経済学	食品生 物科学	合計
[民間企業]	3	2	4	4	3		2	18
研究	1		4	1	1		2	9
技術	1	1		3	1			6
経営・管理 企画・開発 専門知識サービス 営業 その他		1			1			2
	1							1
[公的機関・団体]	3	1	3	4	3		2	16
研究	1	1	3	4	1		2	12
技術	2				1			3
行政・管理 その他					1			1
[教育機関]	2	7	12	7	15		5	48
大学	2	7	12	7	14		5	47
高・中学校					1			1
進学、その他	3	2	0	5	4	4	1	19
合 計	11	12	19	20	25	4	10	101

11) 教員の表彰・活動状況（平成19年度）

専攻等	学会賞等を受賞 した専任教員数	日本学士院賞、同 恩賜賞等の受賞 教員数	政府、地方公共団 体の審議会等の 委員	左のうち政府審 議会等委員
農学	3		1	1
森林科学	3		3	2
応用生命科学	4		1	1
応用生物科学	4			
地域環境科学	1		1	1
生物資源経済学			4	
食品生物科学			1	1
附属牧場				
附属農場				
合 計	15	0	11	6

12) 大学院学生のT A、R A、及び日本学術振興会特別研究員の受入（19年度）

年度	T A採用者数		日本学術振興会特別研究員の受入数		リサーチ アシスタント 採用数
	T A採用者数 (修士課程)	T A採用者数 (博士課程)	日本学術振興 会特別研究員 の受入数 (D C)	日本学術振興 会特別研究員 の受入数 (P D)	
2003	162	103	11	5	40
2004	182	138	16	5	45
2005	225	89	17	3	79
2006	237	85			78
2007	243	81			59

13) 農学研究科教員の配置

(平成20年4月1日現在)

区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
農学専攻	8	6 (1)	2	9 (1)	25 (2)
森林科学専攻	10	7	3 (1)	11	31 (1)
応用生命科学専攻	9 (1)	10		14 (1)	33 (2)
応用生物科学専攻	12	14	1	14 (2)	41 (2)
地域環境科学専攻	10	11 (1)	4	14 (2)	39 (3)
生物資源経済学専攻	5 (1)	5	2	4 (1)	16 (2)
食品生物科学専攻	6	6 (1)		8 (1)	20 (2)
附属牧場		1			1
附属農場	1			5 (1)	6 (1)
合 計	61 (2)	60 (3)	12 (1)	79 (9)	212 (15)

() 内は女性で内数

14) 農学研究科教員の構成

年 度	教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
2002	72 (3)	68 (3)	12 (2)	86 (9)	238 (17)
2003	69 (3)	62 (2)	4 (7)	77 (7)	212 (19)
2004	73 (3)	60 (2)	11 (2)	83 (7)	227 (14)
2005	66 (2)	61 (3)	13 (1)	79 (7)	219 (13)
2006	65 (2)	64 (3)	11 (1)	80 (10)	220 (16)
2007	62 (2)	61 (3)	12 (1)	79 (10)	214 (16)

() 内は女性で内数

15) 農学研究科・農学部教員の年齢構成

(平成20年4月1日現在)

年齢区分	教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
60歳以上	17	4			21
59～55	27	5		3	35
54～50	14	17	4	2	37
49～45	3	18	3	6	30
44～40		11	2	30	43
39～35		5	2	19	26
34～30			1	17	18
30歳未満				2	2
合 計	61	60	12	79	212

16) 農学研究科／農学部管理運営に係わる各種委員会

委 員 会 名	構 成	所 管 事 項
専 攻 長 会 議	研究科長、副研究科長、各専攻長、附属施設長	研究科教授会、研究科会議の議題調整その他研究科の管理運営にかかわる事項
学 科 長 会 議	学部長、副研究科長、各学科長、(コース長)	学部教授会の議題整理その他学部の管理運営にかかわる事項
研究科教務委員会	副研究科長、各専攻の教授1名	大学院の入試、教育にかかわる事項
学部教務委員会	副研究科長、各学科の教授1名、入選研委員	学部の入試、教育にかかわる事項
将来構想検討委員会	研究科長、副研究科長、各専攻の教授1名、事務部長	研究科の将来構想にかかわる事項
制度・組織等検討委員会	副研究科長、各専攻の教授1名、附属農場の教授1名、事務部長	学部、研究科の制度・組織などにかかわる事項
建 築 委 員 会	副研究科長2名、各専攻の教授1名、附属農場の教授1名	土地利用と建築計画にかかわる事項
広 報 委 員 会	副研究科長2名、京都大学広報委員会委員、各専攻・施設の教員1名、総務課長、教育・研究協力課長	広報活動に関する企画・立案・実施
比較農業論講座運営協議会	副研究科長、同講座教員、留学生専門教育教員、各専攻の教授1名	比較農業論講座の運営にかかわる事項
研究活動推進委員会	副研究科長、各専攻・附属農場の教授1名	研究活動の推進にかかわる事項
評 価 委 員 会	研究科長、副研究科長、専攻長、学科長、附属施設長、事務部長	研究科、学部の評価にかかわる事項
研究活動評価専門委員会	副研究科長、評価委員会の指名する教員若干名	
教育活動評価専門委員会	副研究科長、評価委員会の指名する教員若干名	研究科、学部の教育活動評価にかかわる事項
年報編集専門委員会	副研究科長2名、各専攻・学科・施設の教員1名	年報の編集・刊行に関する事項
学 生 生 活 委 員 会	副研究科長、京都大学学生部委員会委員、各専攻の教員1名	学生の補導、学生部委員候補者の選出など
国 際 交 流 委 員 会	副研究科長、京都大学国際交流委員会委員、留学生専門教育教員、各専攻・施設の教員1名	国際交流、外国人留学生、学部・大学院生の国費による海外派遣、留学生室の運営など
図 書 委 員 会	附属図書館協議会協議員、各専攻・附属農場の教員1名	図書、雑誌の購入、図書館の運営などにかかわる事項
環境・安全・衛生委員会	副研究科長2名、各専攻の教員1名	環境保全整備、安全対策に関する事項
情報システム運営委員会	副研究科長、各専攻・附属農場の教員1名、学術情報メディアセンター協議員、事務部長	情報システムの運営に関する必要な事項

委 員 会 名	構 成	所 管 事 項
情報セキュリティ委員会	研究科長、副研究科長、附属施設の教員1名、学術情報メディアセンター協議員、KUINS利用負担金検討委員会委員、情報環境機構教育用コンピュータシステム運用委員会委員、情報システム運営委員会委員、事務部長、総務課長、経理課長、教育・研究協力課長	情報セキュリティに関する事項
人権問題対策委員会	京都大学人権委員会委員、カウンセリングセンター管理運営委員会委員、京都大学学生部委員会委員、副研究科長1名、各専攻の教授1名、事務部長	人権侵害にかかわる諸問題の防止
放射線障害防止委員会	研究科長、放射性同位元素等管理委員会委員、放射線障害予防小委員会委員、放射線取扱主任者及び副主任者、エックス線作業主任者及び副主任者	放射線同位元素及びエックス線の安全性に関する問題、教育、訓練、施設の改廃、維持に関する事項
動物実験委員会	京都大学動物実験委員会委員、動物実験を取扱う分野等の教員	動物実験計画書の審査、動物実験に関する助言

17) 施設設備（農学研究科・農学部：吉田地区北部構内）

区 分	建 物		
	築 年	建面積（㎡）	延面積（㎡）
農学部			
農学部総合館	昭42	789	3,839
〃	昭44	1,238	5,420
〃	昭47	1,835	9,879
〃	昭48	1,150	7,842
〃	昭50	675	3,879
〃	昭52	732	3,246
〃	昭53	0	226
〃	昭59	273	1,049
〃	昭63	385	1,412
旧農業簿記研究施設	昭 8	187	415
〃	昭41	109	327
農学部危険物倉庫	昭39	22	22
ガンマー線照射室	昭36	25	25
〃	昭42	109	109
農学部機械工作場	昭46	264	330
農学研究科2号館	平 6	346	1,782
農・林学科温室実験室	昭45	133	133
農学科温室南棟	平 7	85	85
熱帯農学専攻温室	平 7	85	85
農薬研究施設	昭39	331	430
〃	昭46	0	265
〃	昭57	49	95
農薬研農薬試験室	昭40	122	122
農業工学科温室	昭 6	172	172
〃	平 6	0	69
農芸化学科温室	平 6	132	132
農芸化学科準備室	平 6	32	32
農学科温室東棟	平 6	148	148
農学科温室西棟	平 6	148	148
農学部ガラス温室	昭48	79	79
農学部危険物倉庫	昭50	22	22
農学部温室	昭52	98	98
農業工学科機器収納庫	昭58	173	265
畜産学科家畜実験室	昭58	56	56
農学部資料館	昭58	95	166
初期胚操作動物実験室	昭61	733	922
農学科育種学温室	昭62	138	138
農学専攻形質転換体植物順化室（温室）	平13	113	113
植物遺伝学バイオリソース温室	平15	57	57
農学専攻形質転換体植物育成室（温室）	平15	59	59

総合研究棟（農・生命）	平17	1,421	7,608
その他		1,318	1,412
計		13,983	52,713

18) 施設設備（農学研究科・農学部：宇治地区構内）

区 分	建 物		
	築 年	建面積（㎡）	延面積（㎡）
宇治地区研究所			
宇治地区研究所本館	昭41	0	28
〃	昭43	0	31
〃	昭45	686	3,212
〃	昭54	0	223
植物栽培・動物実験室（R1）	昭47	124	124
〃（S1）	昭47	94	94
〃	昭48	64	64
新食品素材製造実験室	昭59	160	160
その他		63	63
計		1,191	3,999

19) 施設設備（附属農場）

区 分	建 物		
	築 年	建面積（㎡）	延面積（㎡）
本場（八丁畷）			
肥料庫	昭 5	113	113
〃	昭43	7	7
蔬菜部堆肥舎	昭 4	59	59
摂津農場危険物倉庫	昭41	6	6
蔬菜選別室	昭 3	83	83
コンクリート倉庫	昭 5	86	86
農機具舎	昭 5	116	116
炊事室	昭 5	48	48
〃	昭55	4	4
加工室	昭 8	308	308
農場本館（管理所）	昭 5	333	469
農場別館	平 6	161	161
蔬菜ガラス室	平10	99	99
研究室（作物果樹蔬菜）	昭36	165	165
〃	昭46	132	132
機械格納庫	昭46	197	197
危険物倉庫	昭48	3	3
畜産堆肥舎	昭55	35	35
農場ガラス温室	昭56	202	202

農場水田バラック	昭 3	178	178
蔬菜選別室	昭48	28	28
畜糞処理施設	昭59	108	108
〃	昭60	18	18
〃	昭61	9	9
農場車庫	昭61	70	70
農場学生更衣室	昭61	59	59
農場コンバイン収納庫	総61	48	48
農場薬剤室	昭63	58	58
果樹温室	平 4	281	281
堆肥舎	平 9	123	123
簡易トイレ	平17	4	4
(小計)		(3,141)	(3,277)
本場（古曽部地区）			
大サボテン室	昭 7	99	99
小サボテン室	昭16	46	46
大温室	昭51	141	141
〃	昭53	118	118
〃	昭55	185	185
〃	昭57	23	23
〃	昭57	44	44
〃	昭58	81	81
古曽部温室	昭47	119	119
古曽部演芸場実験室	昭47	48	48
温室研究室	昭53	208	208
(小計)		(1,112)	(1,112)
京都農場			
農場材料庫	大14	46	46
園芸実験室	大14	89	178
(小計)		(135)	(224)
計		4,388	4,613

20) 施設設備（附属牧場）

区 分	建 物		
	築 年	建面積 (㎡)	延面積 (㎡)
附属牧場			
収納舎	昭45	162	162
牧場宿泊室	昭45	89	89
堆肥舎	昭54	100	100
繁殖育成牛舎棟	昭54	988	988
管理宿泊棟	昭55	472	939
解体室棟	昭56	147	147
大農具舎棟	昭56	487	487
中小家畜棟	昭56	293	293
肥育牛舎棟	昭56	463	463
堆肥置場	昭56	200	200
危険物倉庫	昭56	8	8
第2堆肥置場	平8	192	192
堆肥処理場	平8	184	184
計		3,785	4,252

21) 施設設備（農学研究科・農学部：物集女地区）

区 分	建 物		
	築 年	建面積 (㎡)	延面積 (㎡)
栽培植物起源学研究室			
栽培植物起源学研究室本館	昭17	129	129
栽培植物起源学研究室倉庫	昭19	87	87
栽培植物起源学研究室第1温室	平4	70	70
栽培植物起源学研究室第3温室	昭50	77	77
栽培植物起源学研究室第4温室	平8	70	70
栽培植物起源学研究室第5温室	平8	70	70
栽培植物起源学研究室科学実験室	昭19	115	115
栽培植物起源学研究室標本庫	平4	42	84
栽培植物起源学研究室バイオリソース温室	平15	70	70
その他		72	72
計		802	844

22) 農学研究科／農学部の建物整備状況

団地名	施設名称	保有面積 (a)m ²	必要面積 (b)m ²	不足整備面積 (c=b-a)m ²	不足割合 (c/a)%
北 部	農学部	48,549	66,030	17,481	36.0
宇 治	農学部	3,999	3,999	0	0.0
丹 波	附属牧場	4,252	4,252	0	0.0
物集女	栽培植物起源学研究室	844	844	0	0.0
長 浜	舞鶴水産実験所	758	758	0	0.0
八丁畷	農学部	199	199	0	0.0
合 計		58,606	76,087	17,481	29.8

23) 購入外国雑誌タイトル数の推移

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
タイトル数	549	490	473	448	448	336	320

24) 文献複写処理件数の推移

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
受付件数	7,063	4,484	3,473	3,388	3,249	2,338	2440
依頼件数	2,700	1,226	1,026	1,321	968	1,003	1018

25) 京都大学農学部・農学研究科部局間学術交流協定覚書締結リスト

2008年3月現在

番号	締結先機関名 (英文名)	国名	締結年月日
1	ウィスコンシン大学マディソン校農学・生命科学部 (College of Agricultural and Life Sciences, University of Wisconsin-madison)	アメリカ合衆国	昭和48年6月4日
2	ボゴール農科大学 (Bogor Agricultural University)	インドネシア	昭和58年7月26日 (平成13年11月28日) (平成18年11月27日)
3	ロンドン大学ワイ校 (Wye College, London University)	イギリス	昭和58年7月26日
4	コーネル大学農業・生命学部 (Cornell University)	アメリカ合衆国	平成元年8月4日
5	ハノーバー大学景観保全・自然保護研究所 (Hannover University)	ドイツ	平成3年4月18日
6	ウィーン農科大学 (Wien Agricultural University)	オーストリア	平成4年7月30日
7	アントファガスタ大学海洋資源学部 (Universidad de Antofagasta)	チリ	平成4年10月26日
8	ソコイネ農科大学 (Sokoine University of Agriculture)	タンザニア	平成6年2月14日
9	カザフ農業大学 (Kazakh State University of Agriculture)	カザフスタン 共和国	平成10年7月3日
10	コンケン大学 (Khon Kaen University)	タイ	平成12年6月5日 (平成13年6月22日)
11	仁済大学校医生命工学大学/仁済大学校大学院 (College of Biomedical Science and Engineering, Inje University /Graduate School of Inje University)	大韓民国	平成13年4月25日 (平成13年4月25日)
12	上海水産大学 (Shanghai Fisheries University)	中国	平成15年10月24日 (平成18年3月20日)
13	南京農業大学 (Nanjing Agricultural University)	中国	平成16年10月21日 (平成16年10月21日)
14	昆明理工科大学 (Kunming University of Science and Technology)	中国	平成18年9月21日 (平成18年9月21日)
15	東北林業大学 (Northeast Forestry University)	中国	平成18年12月30日 (平成18年12月30日)

※ () 内は学生交流協定(授業料等不徴収)の締結年月日

26) 学部・大学院学生の外国留学数

年 度	学部学生	修士課程	博士課程	合 計
2003	2	4	3	9
2004	2	1	0	3
2005	3	1	0	4
2006	1	3	0	4
2007	7	3	0	10

27) 外国人留学生受入状況

年 度	学部学生	修士課程		博士課程			合 計
	国 費	国 費	私 費	国 費	外国政府 派遣	私 費	
2002	1	4	5	11	2	4	27
2003	1	3	8	15	0	12	39
2004	0	2	11	6	0	5	24
2005	0	5	6	12	0	12	35
2006	0	7	5	4	0	5	21
2007	0	5	4	7	0	5	21

28) 国別留学生数（農学研究科・農学部）

（2007年5月1日現在）

29) 公開講座等

1. 森林科学専攻の公開講座（有料）

開 催 日	テ ー マ 等	参加者	開催場所
平成16年10月16～17日	森と木から見える世界	124	農学研究科
平成17年10月22～23日	サステナブルって何ですか？ ー 拡がる森の見方ー	63	生存圏研究所
平成18年10月28日	森を観るミクロな目・マクロな目	54	農学研究科
平成19年10月13～14日	森を食べる ー 森と木と健康ー	40	生存圏研究所

* 本件は森林科学専攻と木質科学研究所（平成16年度より生存圏研究所）が合同で毎年交互に開催

2. 生物資源経済学専攻の公開講座（有料）

開 催 日	テ ー マ 等	参加者	開催場所
平成16年 7 月12～14日	第68回農林経済・経営・簿記講習会	112	農学研究科
平成17年 7 月11～13日	第69回農林経済・経営・簿記講習会	148	農学研究科
平成19年 1 月15～17日 平成18年 7 月24～26日 平成18年 7 月27～29日	第70回農林経済・経営・簿記講習会 第一クラス 農業 営におけるビジネス・マインド 第二クラス 地域農業・農業経営のコーディネート 第三クラス 食品トレーサビリティの原理と応用	9 13 32	農学研究科
平成20年 1 月 7～9 日 平成19年 7 月23～25日 平成19年 7 月26～28日	第71回農林経済・経営・簿記講習会 第一クラス 農業経営によるビジネス・マインド養成のための基礎実習 第二クラス 地域農業・農業経営のコーディネート 第三クラス 食品トレーサビリティの原理と応用	11 6 29	農学研究科

3. 附属農場の公開講座（無料）

開 催 日	テ ー マ 等	参加者	開催場所
平成16年11月 7 日	農業と食料の未来ーその 1ー	75	附属農場
平成17年11月 3 日	農業と食料の未来ーその 2ー	58	附属農場
平成18年11月 3 日	食料としての大豆の意義	57	附属農場
平成19年11月 3 日	農業と食料の未来ーその 3ー	54	附属農場

4. 農学研究科公開シンポジウム（無料）

開 催 日	テ ー マ 等	参加者	開催場所
平成16年11月30日	お酒からのメッセージ食・生活・文化との関わりを探る	486	百周年記念ホール
平成17年 7 月15日	食の安全性をめぐる	321	百周年記念ホール
平成18年 6 月23日	高品質牛肉生産に関する研究 ービタミンC投与と牛肉の質の関係Ⅱー	155	京大会館
平成18年 5 月25日 平成18年 6 月29日 平成18年 7 月27日 平成18年10月26日 平成18年11月30日 平成18年12月22日	連続シンポジウム 多様性の中の統一を目指して 第一回 第二回 第三回 第四回 第五回 第六回	149 134 143 115 116 114	農学研究科
平成19年 2 月15日	公開シンポジウム 未来と地球を見据えた食の研究	110	京大会館

平成19年 2月15日 ～17日	国際シンポジウム アジアのマツ枯れ		90	百周年記念ホール
平成19年 4月26日 平成19年 5月31日 平成19年 6月28日 平成19年10月25日 平成19年11月29日 平成19年12月21日	連続シンポジウム 多様性の中の統一を目指して	第一回 第二回 第三回 第四回 第五回 第六回	94 71 156 79 105 110	農学研究科

5. その他

COE（微生物）

・シンポジウム

開催日	テーマ等	参加者	開催場所
平成16年 3月10日	公開国際シンポジウム 21世紀COEプログラム「微生物機能の戦略的活用による生産基盤拠点」“京大農学研究科における微生物機能の開発研究”	162	京大会館
平成16年11月30日	農学研究科公開シンポジウム 「お酒からのメッセージ ー食・生活・文化との関わりを探るー」	486	京都大学 百周年時計台記念館 百周年記念ホール

・産学連携シンポジウム

開催日	テーマ等	参加者	開催場所
平成16年 2月26日	第1回産学官ミニシンポジウム	53	富山県立大学生物工学センター
平成16年 7月23日	第2回ミニシンポジウム 「産業を創出する応用微生物学」	47	信州大学農学部
平成16年10月15日	第3回ミニシンポジウム 「産業を創出する応用微生物学(2)」	58	石川県農業短期大学 農業資源研究所
平成17年 3月 4日	第4回ミニシンポジウム 「産業を創出する応用微生物学(3)」	53	山口大学
平成17年 7月22日	第5回ミニシンポジウム 「産業を創出する応用微生物学(4)」	76	福井県国際交流会館
平成18年 2月 3日	第6回ミニシンポジウム 「産業を創出する応用微生物学(5)」	48	九州大学 箱崎キャンパス 国際ホール
平成18年 7月28日	第7回産学官ミニシンポジウム 「産業を創出する応用微生物学(6)」	58	宮城学院女子大学
平成19年 2月16日	第8回産学官ミニシンポジウム 「産業を創出する応用微生物学(7)」	67	京都学園大学
平成19年 7月27日	第9回産学官ミニシンポジウム 「産業を創出する応用微生物学(8)」	92	岡山大学 創立50周年記念館多 目的ホール
平成20年 1月11日	第9回産学官ミニシンポジウム 「産業を創出する応用微生物学(9)」	165	農学研究科

・セミナー

開催日	テーマ等	参加者	開催場所
平成15年9月30日	Gene Expression Laboratory, The Salk Institute for Biological Studies (コレステロールの細胞内輸送 ～アメリカ博士課程での研究)	21	農学研究科
平成15年10月31日	RNA silencing in plants and animals: mechanism and biological roles (植物と動物におけるRNAサイレンシング：その機構と生物学的役割について)	25	農学研究科
平成15年11月4日	Distribution and pathogenicity of bacteria species carried by Bursaphelenchuxylophilus in China (“マツ枯れ”の病原体は細菌か?)	17	農学研究科
平成15年11月6日	有用酵素探索源としての嫌気性微生物	26	農学研究科
平成15年12月3日	企業におけるバイオ戦略と研究開発	37	農学研究科
平成15年12月22日	植物の病害抵抗性におけるシャペロン分子	18	農学研究科
平成16年1月20日	企業におけるバイオ戦略と研究開発(2)	35	農学研究科
平成16年2月13日	Principles of Metabolic Engineering	40	農学研究科
平成16年3月12日	Principles of Metabolic Engineering 2	32	農学研究科
平成16年3月26日	Production of biotech proteins under GMP-conditions	30	農学研究科
平成16年4月23日	①Molecular characterization of microbial population and functional gene diversities in complex contaminant mixture environments ②Functional analysis of the murine peroxisomal membrane protein Pxmp2 by genomic inactivation	26	農学研究科
平成16年5月14日	生物学とスケールフリーネットワーク：代謝を例に	21	農学研究科
平成16年9月30日	Insight into an ammonia-oxidizing bacterium, Nitrosomonas europaea, from the complete genome sequence	18	農学研究科
平成16年10月5日	中国における応用微生物学の現状および中国原産植物由来の抗菌性物質のスクリーニング	16	農学研究科
平成16年10月18日	蛋白質立体構造から機能を予測する	24	農学研究科
平成16年11月1日	バイオインフォマティクス入門	27	農学研究科
平成16年11月29日	ゲノムおよびプロテオーム情報からのタンパク質機能予測	22	農学研究科
平成16年12月13日	RNAiの分子機構 ー遺伝子発現抑制の原理と実験技術ー	31	農学研究科

平成16年12月21日	Single Protein Production in Living Cells	27	農学研究科
平成17年 1 月17日	蛋白質の設計 ー計算による設計と実験的検証ー	27	農学研究科
平成17年 1 月18日	Cloning and Characterization of Genes Encoding Nucleoside Hydrolase I and II from <i>Corynebacterium ammoniagenes</i> , and New Trends in Biotechnology in Korea	17	農学研究科
平成17年 2 月18日	Nematode spermatogenesis and phylogeny	15	農学研究科 (宇治キャンパス)
平成17年 3 月14日	Aromatic metabolism in obligate anaerobic bacteria	22	農学研究科
平成17年 5 月24日	Lonza Biotechnology: From the test tube to the 75 m3 bioreactor	28	農学研究科
平成17年 7 月25日	ヒトの苦味受容体の進化	24	農学研究科
平成17年10月13日	Bio-inspired Power Source for Microelectronics Applications	21	農学研究科
平成17年10月17日	Biocatalysis in Pharmaceutical Development: Opportunities, Achievements and Prospects	30	農学研究科
平成17年11月 1 日	①グリーンバイオ研究の展開 ②微生物機能を利用した物質生産	36	農学研究科
平成17年11月 7 日	Protein import into Peroxisomes	24	農学研究科
平成17年11月24日	ゲノム時代の発酵生産菌育種戦略	37	農学研究科
平成17年12月 7 日	①新規微生物酵素の開発と工業利用 ②醸造微生物のポストゲノム研究 ー清酒麹菌を用いた有用物質生産ー	35	農学研究科
平成18年 1 月17日	①酵母の小胞体輸送系に関わる膜タンパク質 ②ビール酵母のゲノム解析	33	農学研究科
平成18年 1 月30日	<i>Candida antarctica</i> lipase B for synthesis of special polymers and formation of C-S, C-N and C-C bond	32	農学研究科
平成18年 3 月 1 日	White Biotechnology in Europe	28	農学研究科
平成18年 6 月20日	Biocatalysis with cytochrome P450 monooxygenases: advantages and bottlenecks	32	農学研究科
平成18年 6 月26日	From the parts to the systems 大腸菌を用いたシステム生物学	34	農学研究科
平成18年 6 月29日	ナノテク・バイオ融合研究： ポリマーテクノロジーのバイオ分野への応用	37	農学研究科
平成18年 7 月 3 日	バイオテクノロジーの父、高峰譲吉	67	農学研究科
平成18年 7 月10日	光学活性化化合物生産のために酵素・微生物 反応をどのように活用するか	38	農学研究科
平成18年 7 月25日	アーキアによるメタン生成と嫌気メタン酸化	29	農学研究科
平成18年 9 月29日	Receptor Dynamics During Peroxisomal Protein Transport	29	農学研究科

平成18年11月 8 日	①代謝型グルタミン酸受容体の構造と活性化機構 ②洗剤用酵素の開発研究	38	農学研究科
平成18年11月15日	バイオベンチャーに挑む	37	農学研究科
平成18年11月28日	NADH 脱水素酵素のすべて	28	農学研究科
平成18年12月12日	こだわりのおいしいパンをつくる 山崎 パンの挑戦－製パン業の具体的研究事例 の紹介と研究職採用へのアドバイス	32	農学研究科
平成18年12月13日	進化理論によりバイオビジネスを加速する－ 不均衡進化理論と不均衡変異導入法の実力－	36	農学研究科
平成18年12月13日	White Biotechnology－Industrial Application of Biotechnology－Today and Future	35	農学研究科
平成19年 1 月15日	バイオベンチャーに挑む	33	農学研究科
平成19年 3 月 7 日	Enzymes in Organic Synthesis From Commercial Enzymes to Tailor-Designed Biocatalysts	32	農学研究科
平成19年 4 月27日	バイオ技術から新しい食品機能の発見と 応用～脂肪酸発酵とアンチエイジング健康 食品“セサミンE”の開発～	37	農学研究科
平成19年 5 月11日	食品開発における安全と安心 －クノールにおける食品開発技術戦略－	64	農学研究科
平成19年 5 月18日	今、大切にしたいこと	32	農学研究科
平成19年 6 月20日	三菱化学のバイオプロセス開発事業 －事例の紹介と今後の展望－	35	農学研究科
平成19年 6 月27日	欧米及びわが国における天然物創薬の動向 －資源としての菌類の可能性－	56	農学研究科
平成19年 7 月11日	①ゲノム解析とメタボローム解析が拓く 新ビジネス ②次世代型塩基配列決定技術がもたらす 生物学的研究の新たな展開	32	農学研究科
平成19年 7 月17日	Microbial biocatalysts for whole-cell reaction	37	農学研究科
平成19年10月12日	Enzyme Catalysis and the Production of Functional Food	30	農学研究科
平成19年10月16日	Secretion of Flavins by Shewanella Species, Their Role in Extracellular Electron Transfer and Biotechnological Applications	34	農学研究科
平成19年10月24日	国菌：麹菌	58	農学研究科
平成19年11月 1 日	微生物にたのんで裏切られたことはない －協和醗酵の研究活動の紹介－	46	農学研究科
平成19年11月19日	おいしく食べて健康づくり －味の素株式会社の研究活動について－	53	農学研究科
平成19年11月30日	医薬研究開発の実際	33	農学研究科

平成19年12月11日	Sustainable Business－business scopes and style－	30	農学研究科
平成19年12月12日	新たに会社を築くということ －技術を、人材を、資金を築く－	83	農学研究科
平成20年 1 月23日	Biocatalysis－Fundamentals and applications－	32	農学研究科
平成20年 3 月 4 日	Enzymatic catalysis in poorly soluble systems using the production of biotensides as an example	30	農学研究科
平成20年 3 月11日	Enzymes for biooxidation －monooxygenases, laccases, desaturases－	37	農学研究科

・ 共催行事

開 催 日	テ ー マ 等	参加者	開催場所
平成15年11月 8 日 ～ 9 日	第 9 回微生物をめぐる生物間相互作用に関する小集会	50	花脊山の家
平成15年11月16日 ～18日	第12回日本ドイツ酵素工学ワークショップ	51	ピアザ淡海
平成15年11月22日	第 3 回環境微生物研究会シンポジウム 「微生物バイオテクノロジー－高校と大学の接点」	53	京大会館
平成15年12月 5 日	第 3 回 脂質工学研究部会講演会	67	大阪市立工業研究所
平成16年 6 月 3 日 ～ 4 日	第16回酵母合同シンポジウム 「いま、酵母研究に何が求められているか」	320	大阪市立大学
平成16年 9 月12日 ～15日	The 9th Swiss－Japanese Joint Meeting on Biotechnology and Bioprocess Development	54	Mueren, Switzerland
平成16年10月30日	第 6 回 CLA懇話会	65	ばるるぷらざ京都
平成16年12月17日	第 3 回 脂質工学研究部会講演会	73	大阪市立工業研究所
平成18年 1 月20日	脂質工学研究部会講演会	76	ばるるぷらざ京都
平成18年 1 月26日 ～27日	第 9 回生体触媒化学 びわ湖シンポジウム	73	ピアザ淡海
平成18年 9 月18日 ～20日	The 10th Japanese－Swiss Meeting on Biotechnology and Bioprocess Development	45	金沢国際ホテル
平成18年10月30日 ～11月 2 日	第 9 回日中韓酵素工学会議	96	ピアザ淡海
平成19年 2 月15日 ～18日	「アジアにおけるマツ枯れ」に関する国際シンポジウム	80	京都大学
平成19年 3 月 2 日	第 5 回脂質工学研究部会講演会	75	ばるるぷらざ京都
平成19年 9 月26日	日本生物工学会2007年度大会シンポジウム 「機能性脂質生産の新たなターゲットを探る」	150	広島大学
平成19年11月 8 日 ～10日	第14回日本ドイツ酵素工学ワークショップ	60	白鳥路ホテル
平成20年 2 月29日	第 6 回脂質工学研究部会講演会	77	メルパルク京都

・後援行事

開催日	テーマ等	参加者	開催場所
平成17年10月20日	2nd International Conference of Combinatorial Bioengineering (Human Life Science Forum) (Osaka, Japan)	48	インテック大阪
平成17年11月16日	生物工学会シンポジウム： (ナノとコンピのジョイントシンポジウム) 「バイオテクノロジーイノベーション：融合が拓く新しい世界」	93	筑波大学
平成18年1月12日	ナノ・バイオとコンビナトリアル・バイオのジョイントシンポジウム (第6回コンビナトリアル・バイオエンジニアリングシンポジウム－新バイオ分子と機能の創出をめざして－)	82	理化学研究所
平成18年11月10日	第3回 コンビナトリアル・バイオエンジニアリング会議	55	千里阪急ホテル
平成19年11月9日	第4回 コンビナトリアル・バイオエンジニアリング会議	64	千里阪急ホテル

・英語講座

開催日	テーマ等	参加者	開催場所
平成15年12月～ 平成16年3月	連続講座「科学英語論文の書き方」	48	農学研究科
平成16年5月～ 平成16年12月	連続講座「科学英語論文の書き方(2)」	45	農学研究科
平成19年9月13、 15日	COE 科学英語集中講義 「初めての研究論文の書き方：ジャンル分析とコーパスを使って」	46	農学研究科

COE (昆虫科学)

・国際シンポジウム

開催日	テーマ等	参加者	開催場所
平成17年3月2日 ～3日	(第1回) Development and Metamorphosis	120	京大会館
平成17年10月31日 ～11月2日	(第2回) Innovative Food and Environmental Studies Pioneered by Entomomimetic Sciences	180	芝蘭会館

・シンポジウム等

開催日	テーマ等	参加者	開催場所
平成17年7月2日	第1回 COE 昆虫科学講演会 「虫の見る目、虫を見る目」	75	農学研究科
平成18年6月24日	共催シンポジウム なぜ“自然を知ること”が大切なのか？ －子ども達への環境教育が拓く奄美の未来－	260	龍郷町 りゅうゆう館
平成19年10月31日 ～11月1日	国内シンポジウム 生物間相互に基づく新規害虫管理モデルの構築	88	芝蘭会館

平成19年 7 月 5 日	共催シンポジウム 旅するチョウ、アサギマダラから見た奄美 ー「自然から学ぶ」ことの面白さ、大切さ、再発見ー	250	龍郷町 りゅうゆう館
平成19年 9 月 1 日	共催シンポジウム 昆虫COE フィールド教育プログラム・ 2007年度上賀茂試験地夏の一般公開自然観察会	45	フィールド科学教育センター 里域ステーション 上賀茂試験地
平成20年 3 月15日	共催シンポジウム 時計台対話集会 「むしに教わる森林海連環学」	400	京都大学時計台記念館 百周年ホール